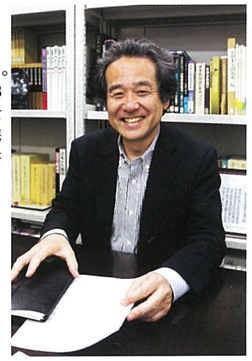
知っているようで知らない!?

世界遺産の基本

そもそも、世界遺産ってどうして生まれたの？　誰がどうやって決めるの？　誰もが気になる基本の「き」から、知る人ぞ知る裏話まで、日本イコモス国内委員会委員長である西村幸夫先生に直撃！

文＝山内貴範



西村幸夫
工学博士。東京大学教授、日本イコモス国内委員会委員長を務める。専攻は都市景観計画など。平成8年から9年間、ICOMOS本部で世界文化遺産の申請案件の評価に携わり、現在は日本の案件の推薦書作成に関わる。

富士山は満を持しての登録決定ですね

6月に富士山が新たに世界文化遺産に登録されました。ところで、そもそも世界遺産って、何ですか？

〝人類が引き継いでいくべき、地球の宝物〟のことです。世界遺産誕生のきっかけは、水没の危機に瀕していたエジプトのアブ・シンベル神殿が、世界各国からの支援によって移設されたことでした。これを機に、貴重な文化財を国際的な視野で守ろうという機運が高まり、昭和47年のユネスコ総会で世界遺産条約が採択されたのです。日本は平成4年に批准しました。登録される物件は不動産に限られ、内容によって3つに分けられ、建造物や遺跡が中心の「文化遺産」、地質や生態系が中心の「自然遺産」、両方の性質を兼ね備えた「複合遺産」があります。

登録が決まるまでのプロセスは、どのようになっているのでしょうか？

まず、世界遺産に推薦するためには、国が世界遺産条約を批准している必要があります。そして、国内において推薦物件を守る体制が整っていなければいけません。日本の場合は、国宝や重要文化財の指定を受けているなど、法律で保護されていることが前提です。こうした条件がそろった上で、はじめて世界遺産委員会に推薦できるのです。その後、文化遺産はICOMOS（国際記念物遺跡会議）が、自然遺産はIUCN（国際自然保護連合）の調査員が候補地を訪れ、世界遺産にふさわしいかどうか検討します。その結果をもとに、「登録」「情報照会」「登録延期」「不登録」の4段階で評価されます。そして、毎年1回開催される世界遺産委員会で正式に登録が決まるのです。

日本の象徴、富士山。芸術や信仰を生み出した文化的な価値が評価された

日本では、推薦する候補を誰がどのように決めているのでしょう？

最初の頃は、文化遺産は文化庁が、自然遺産は環境庁（現在の環境省）がリストを作りました。文化遺産は日本の代表的な建造物を網羅できるように。自然遺産は日本独自の生態系を表すものを選んでいます。文化遺産では、「法隆寺」と「姫路城」が初めて登録されましたが、この2件は資料も多く、準備がしやすかったため、真っ先に推薦できたと言えるでしょう。初めのころはメディアでの扱いも大きくなかったのですが、登録物件の増加に比例するように、世間の関心も高まっていったのです。そして、これまでは国が主導して物件を選んでいたのですが、平成18年から文化遺産に限り、公募を始めたところ、熱を入れる自治体が増え、ブームに拍車がかかったと言えます。

『旅の手帖』では2年前にも世界遺産を特集しました。その頃と比べると、登録物件も増えましたね。

平泉、小笠原諸島、そして富士山の登録が決まりました。来年は富岡製糸場が推薦される予定です。富士山は一度自然遺産で検討されたのですが、その後、文化遺産として推薦されたように、紆余曲折がありました。今回は満を持しての決定だと思いますね。

一方で、鎌倉が推薦を取り下げることになりましたね。年々、登録基準が厳しくなっているとも言われますが。

登録物件の数が多くなったことも背景にありますが、〝顕著で普遍的な価値〟を説明できなければ、登録は難しいと言えます。日本は13番目の「知床」までは順調に登録を決めていましたが、「石見銀山遺跡とその文化的景観」で初めてICOMOSから情報照会が勧告されました。平泉は登録延期が勧告され、構成資産を練り直し、コンセプトも明確にして再挑戦した経緯があります。実は、準備の過程で新たに分かったこともありました。構成資産のひとつである無量光院跡は、西方極楽浄土を意識して、夕日が金鶏山の背後に沈むように伽藍を配置しています。浄土思想を説明する上で決め手になりました。登録のためには、世界に向けて、文化の価値を分かりやすくストーリー立てて説明する必要がありますね。

登録の準備を進める中で分かってくることもあります

日本建築の場合、木造であるがゆえに、火災で失われた名建築もたくさんあります。これが残っていたら世界遺産！という物件も多いのでは？

〝幻の世界遺産〟の筆頭に挙げられるのが、名古屋城です。徳川家康の天下普請で建設された空前の規模の大城郭で、戦前に城郭建築としては初の国宝に指定されました。昭和20年の空襲で焼失しなければ、姫路城より先に登録されていた可能性がありますから、本当に悔やまれますね。ちなみに、世界遺産には、登録物件のうち戦争や開発などで破壊の危機に瀕しているものを「危機遺産」に認定して、保護しようという取り組みがあります。

西村先生が〝未来の世界遺産〟にふさわしいと考えるものはありますか？

まず、今年話題を呼んでいる伊勢神宮でしょうか。20年ごとに社殿を改築する式年遷宮は、意匠を変えずに建て替えて技術も伝承されていく仕組みで、石造建築が主体の西洋では考えつかない発想ですよね。文化の多様性を認める意味でも、登録は意義があると思います。暫定リスト入りが予定されている奄美・琉球も、小笠原諸島と違う独自の生態系が興味深いです。

戦後の建築が世界遺産になる日も遠くありません

シドニーのオペラハウスのように、20世紀に建てられた現代建築も続々世界遺産に登録されていますね。

日本の暫定リストに、ル・コルビュジエが設計した「国立西洋美術館」が入っていますが、日本人建築家の作品も候補になり得るでしょう。今年、伊東豊雄さんが建築界のノーベル賞と言われるプリツカー賞を受賞したように、日本の現代建築は世界的な評価を得ているからです。例えば、戦後を代表する建築家である丹下健三さんの作品は、登録の可能性がありますね。広島平和記念資料館は丹下さんの代表作ですが、原爆ドームと一体となって登録される道もあるでしょう。同じく丹下さんが手がけ、東京オリンピックの会場として建てられた国立代々木競技場は、戦後日本の復興のシンボルであるとともに、20世紀を代表する名建築です。未来の世界遺産候補として、今から大切にしていきたいですね。

今年、20年に一度の式年遷宮が行なわれる伊勢神宮。古い社殿の木材は全国の神社などに譲渡されて、再び建築材として使われる

❶現存していれば登録確実だったとされる名古屋城の本丸御殿。復元が行なわれており、今年5月から一部の公開が始まった。❷丹下健三は原爆ドームを中心に据えて、平和記念公園全体を設計。資料館は戦後の日本建築の出発点となった作品だ